

親子で

みそ作り

令和3年2月21日
中央福祉センター



2月21日(日)静岡市中央福祉センター内3階大会議室で味噌作り体験をおこないました。午前36名午後36名、計72名の参加者が集まり、講師の川村こうじ店(葵区宮ヶ崎町)店主の説明を聞きながら、まず麴、塩をビニール袋に入れよく混ぜ、次に熱々の柔らかくなった大豆と混ぜ合わせていきます。新聞紙の上から足ふみをしてつぶす子、机の上で親子でもみ潰す子など、みんなお父さん、お母さんと一緒に楽しそうに作って完成させました。

最後に味噌の保存方法を教えていただき、ひと家族約2kgの味噌を持ち帰りました。

静岡県子ども会連合会委託事業報告

子ども体験・交流推進事業 「安心・安全」

一番町支部 一番町地区子ども会

令和2年8月23日

いつ起きてもふしぎではないと言われる「大地震」について、2020年6月2日リニューアルオープンした静岡県地震防災センターを見学して、最新の地震対策を親子で学んできました。



令和2年度子ども体験・交流推進事業体験作文

「ふれあい交流事業」

曲金三丁目子ども会
五年 大泉結愛

今日の、ふれあい交流事業の事を初めて聞いた時、「すぐたのしそうだよ」や、「知っている子いるかな?」など、わくわく、ドキドキして、楽しみにしていました。そして今日、知っている子、知らない子など、色々な子に、やさしくせつすることが出来てよかったです。そして、その子ももし2才だとしたら、色とかはまだ分からないかな、考えて行動出来てよかったです。今日、小さい子に、「楽しんでもらえたかな?」、「ちゃんと協力して出来たかな?」など不安もあつたけれど、最後、ニコニコで帰っていく子供を見て安心しました。

今日、最初の方は、ぜんぜんお客さんが来なくて、ひまだったけど後半お客さんがいっぱい来ていそがしくなつて、大へんでした。でも、協力して、がんばれたのであつという間に感じました。今日、とってもおもしろかったです。いい体験が出来てよかったです。

これから、社会に出て、小さい子、しょうがいがある子、色々な子に出あうと思うけど、区別なしでせつしたり、仲良くしたりしたいなど、今日の体験で思うようになります。今日のことを大切にしたいなと思います。今日の事をいかしてこれからがんばっていききたいです。夏のいい思い出が出来ました。



子ども・乳幼児ふれあい交流事業
静岡県健康福祉部長賞

「地震防災センターでの勉強」

一番町地区子ども会
四年 太田愛梨

今日は、地震防災センターへ初めて見学にいってきました。今は新型コロナウイルスのえいきようで予約をしないと見学できないそうなので、どんな所でどんな話を聞けるのか楽しみでした。

入口のゆかには静岡県とその周辺の都道府県が書いてあり、海のある所には津波の高さの数字が書いてありました。見た時には何の数字が書いてあるのかわからなかったけど、案内のお姉さんがARカメラとテレビを使って津波の高さを教えてくれました。大人の身長より水面は高く、子どもが手を上げてジャンプしないとどかない高さで、そこに車や家のがれきりが流れてきたらとてもこわいなと思いました。

地震のゆれを体験する部屋がありました。わたしは四年生なので震度6弱のゆれでしたが、これが寝ている時に起きたらとてもこわいなと思いました。大人達は震度7で、みていたらすごく強いゆれで私がやったらふらふらになりそうなのこわいゆれでした。

地震がくる前に家でもじゆんび出来る事を今日、たくさん知る事が出来ました。水は1日3Lを7日分、食べ物も7日分長くもつ物を保存しておいた方がよい事を知りました。そしてトイレやラジオ、温かい物を食べるためにカセットコンロ、わたしの家には赤ちゃんもいるのでおむつやミルクもいつも多めに用意した方がいいと知りました。

地震も津波も大雨もいつおきるかわからないけど静岡県は三十年以内に地震の起こる可能性は七十%だそうです。いつも考えながら過ごしていこうと思います。

「安心」「安全」普及・実践事業

静岡県子ども会連合会会長賞

「ふれあい交流事業」

曲金三丁目子ども会
六年 青木 理駆

この子ども乳幼児ふれあい交流事業では、下の子を見て楽しく時間をすごしました。私は射的の係で下の子に、射的のやり方を教えるのが一番大変でした。下の子は玉を入れることも知らなかったのです。でも自分よりも下の子は、祭りが今年初めての子もいただろうと思います。なのに、新がたコロナウイルスで色々な祭りが中止となり、悲しい人がいるということとを考えると、とても、がんばろうという気持ちわいてきました。そして、し入れをする日にもついていき下の子たちが楽しむことができるようにみんなががんばりました。

そして今日、下の子たちはえがおで色々な種目を楽しんでいました。笑顔でよろこびながらけい品を受け取る姿が今でも頭の中にかんでくるほどです。自分も下の子の遊んでいることがほこりに思えます。

ほくはこのふれあい交流事業で学んだことがあります。それは今の情きょうだから思うことです。コロナのせいで楽しい夏休みがなくなりましたときに、大人たちがいっしょけんめい考えてくれて、楽しむことができました。自分が大人になったときは、子どもを大切にしてください。楽しいことがあってもむりはせずに、楽しむ事業を作りたいです。



子ども・乳幼児ふれあい交流事業

静岡県子ども会連合会会長賞